

2022 年度
卒業論文・卒業制作集

2023 年 3 月

慶應義塾大学法学部政治学科

塩原良和研究会

指導教員より

みなさんと過ごしたこの2年間（一部の人とは3年間）、コロナ禍のなかでのゼミ活動となりました。かつての政治学科のゼミではあたりまえだった様々な活動が制限されたなかでも、みなさんにとっての一度きりのゼミ生活が充実したものになるように、教員として出来る限りのことをしようといつも考えていました。

2021年度からフィールドワークに「プロジェクト」を導入し、年度末に記録映像を作成していただくことにしました。記録映像は、各フィールドのコミュニティ・パートナーにも見ていただきました。この試みを通じて、ゼミ生と各フィールドの人々との相互理解や信頼がますます深まったと感じます。それは、これから活動する後輩の貴重な財産となるでしょう。2022年度にはフィールドワークコースに「グループ・エスノグラフィ」を導入し、協働学習の要素を強化しました。その成果は卒業論文コースのゼミ生の論文（『政治学研究』掲載予定）とともに、本論文集に収録されています。教室での文献講読と討論にも磨きをかけ、実施した日の夜はぐったりして何も手がつかなくなるほど力を注ぎました。さらに「居場所としてのゼミづくり」コースを新たに立ち上げ、全塾的な「協生カフェ」プロジェクトに携わったのも、大きな挑戦でした。結果的にうまくいかなかったこともあったし、いつもやり過ぎてしまうのは僕の悪い癖ですが、みなさんが僕の呼び掛けに応えてくださったからこそ、ここまで充実したゼミ活動を行うことができました。

「居場所としてのゼミづくり」コースのみなさんの尽力もあって、2022年度には久しぶりにゼミ合宿やOBG会を実施することができました。とても楽しかったですね。みんなで散歩したり、夜遅くまで語りあったり、卒業後に再会を喜びあったり、そういうことのすべてが、学生にとっても教員にとっても、自分の人生を歩んでいくための駆動力になるのだということを改めて感じました。僕は3月から塾派遣留学として日本を離れ、しばらくゼミも開講しません。少し寂しくなりますが、いつの日かみなさんと再会できることを楽しみに、そのときに、楽しそうにゼミ活動に取り組んでいる後輩たちをみなさんに紹介できるように、リフレッシュしてきたいと思います。

それまで、みなさんもどうかお元気で。いままで本当にありがとう。さようなら。

2023年3月

慶應義塾大学法学部教授

塩原良和

※本論文集掲載論文の引用・紹介について

本論文集に収録されている論稿の外部での引用・紹介を希望する場合は、著者本人と塩原に事前にご相談ください（塩原ゼミウェブサイト、および『政治学研究』にて公開・掲載されている論文は、自由に引用・紹介していただけます）。

目次

－卒業論文・卒業制作－

外国につながる子どもの高等教育進学をめぐる課題と支援 『政治学研究』掲載予定
井上 雪菜 ……………1

食たくを囲んで（映像作品）※非公開
佐藤 理人

－グループ・エスノグラフィー－

*は来年度在学予定者

子供達が出示する感情とその表出の条件
——ふれあい館の体験から考察する
池田 茜、*宮本 七菜
（14期：井上 駿太、安田 光里、李 宣雨） ……………25

居場所づくりにおける居心地の良さと定着度合いの連関
池田 みなみ、井浪 大地、齋藤 日菜子 ……………48

鶴見よる教室の共同エスノグラフィ
——鶴見よる教室内の交流と居場所づくり
永樂 拓磨、北原 美紗、中島 彩奈、中橋 萌香、松井 萌々花
（14期：石田 麗奈、國枝 三津） ……………64

成長の場所としての県川
行徳 可南子、松井 南帆
（14期：金 燦宇、大胡 鈴華、文 チェウオン） ……………91

－「居場所としてのゼミづくり」コース－

2022年度秋学期末プレゼンテーション（スライド） ……………114
佐々木 里彩子、岡井 天海、神谷 莉乃、佐藤 風沙、内藤 颯乃佳、
（14期：岩永 玲奈、内野 実咲、小川 真依、小西 莉子、城間 メリッサ、柳下 碧）